

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部丸山東壁正面壁緑ルート～立山

日時:1988年12月24日～1989年1月1日

メンバー:伊藤達夫(コーチ)、下西 勲、柴山靖博(左京労山)

概要:計画立案段階では剣岳まで行こうという話もあったが、黒部での初めての本格的な冬期登攀ということで、立山まで達したら黒部ダムに戻るというプランに落ち着いた。メンバ全員、金比羅でのアイゼントレーニングを積極的にこなし、意欲を持って山行に臨んだが、天候と壁の状態が非常に悪く、当初予定していたダイレクトルートから緑ルートに転進することになった。なお、この山行ではテントではなくツェルトを使用し、登攀ではトップのザックのみを荷上げし、2番手、3番手もユマーリングを行わずに登ってフォローした。それまで冬期登攀では持たないことが一般的であったワカンを使用したことが成功につながった。

記録

12月24日 雪

アルペンラインゲート(5:35)－黒部ダム(10:30)
－正面壁下岩小舎(15:15)

松本で新宿からの急行アルプスに乗り換え大町へ。タクシーで大町有料道路のゲートまで行き歩きだす。バテ気味になり関電トンネル入口へ。さらにより単調なトンネル歩きで黒部ダムに着く。

トンネルの出口はほども雪で埋まっており、展望台の階段からハッチを開けて外へ出る。ワカンをつけストックを持ち出発。黒部川に降りラッセルして進む。積雪量は例年以上であるが水流は埋まっておらず、丸山谷から内蔵助谷出合まで進むのに今までになく苦労した。

内蔵助谷も水流が埋まり切っておらず、右岸の斜面をトラバース気味にラッセルする。一ルンゼの押し出しを過ぎるまで雪崩痕のある斜面の連続であった。1ルンゼ押し出し右の尾根状を登り、最後は右にトラバースして岩小舎に入る。



1ルンゼ押し出しから見た丸山東壁

12月25日 雪のち曇

ルート工作開始(12:15)－終了(15:00)

下部岩壁の雪壁の状態が悪く今にも雪崩そうなので、ダイレクトルートを決め緑ルートへの転進を決定。ラッシュをかけることもやめ、午後からT2までフィックスを張った。



緑ルート2ピッチ目の登攀

12月26日 曇のち雪

登攀開始(6:50)－中央バンド(19:15)
アタックをかける。中央バンド直下の6ピッチ目から夜間登攀となる。7ピッチ目で長い雪壁を登り頂点から内側に向かって下りホテル丸山に入る。ツェルトで洞穴の入り口を塞いでビバーク。

12月27日 晴のち雪

上部登攀開始(8:30)－夏の終了点(21:30)
前日の疲れが残り出発が遅くなった。天気もよく、大ハングは順調に越えるが、通算11ピッチ目から再び夜間登攀となり、降雪も始まり雪崩が頻発する。ロープがスタックするトラブルもあり、ヨレヨレになって夏の終了点にたどり着き、3人並んで座ってビバークする。

登山・登攀の記録

12月28日 雪

登攀開始(8:00) - 左岩稜最上部岩小舎(13:00)
 不要になった登攀装備をデポし、少し身軽になっ
 て上部灌木帯に挑む。雪崩をかいくぐって3ピッ

チ登ったところで岩小舎を掘り出して雪崩から待
 避する。稜線まではとても登れそうもないので早め
 にビバークし体力回復を図ることにした。1日半ぶ
 りに食事をする事ができた。

丸山東壁緑ルート～丸山中央山稜



広い尾根を岩稜が始まる手
 前まで登ってから内蔵助カ
 ールに降りる。カールの上
 端をトラバースして縦走路
 に出て富士ノ折立のピーク
 へ。

急な雪稜から尾根上の露岩
 を左から巻いてナイフエッ
 ジを渡る。ルンゼ状の雪壁
 か右の尾根を登ってジャン
 クションへ。

内蔵助乗越はテント・雪洞
 の適地。蛇行する緩い雪稜
 を登り傾斜が増す手前ま
 で。その先は正面の直登か
 雪壁を右斜上し小尾根に出
 て尾根に戻る。雪の状態に
 よりここでアンザイレン。

北峰から主峰までは単調な
 ラッセル。御前谷乗越への
 下りはルートファイン
 ディングに要注意。
 乗越から広い雪面を経て
 右の小尾根を登って内蔵助峰へ。
 正面壁緑ルートから北峰まで登る。
 夏の終了点から北峰に続く
 尾根に出るまでの雪壁が悪い。
 尾根に出て、岩峰は左を通り、キノ
 コ雪の部分は右から通過する。5 冠
 の露岩の下でアンザイレンしてこれ
 を越え続けナイフエッジを渡る (50
 m) と尾根が広がって丸山北峰のピー
 クに着く。

登山・登攀の記録

12月29日 晴

登攀開始(8:30)－丸山北峰(19:40)

天候が回復。もぐる雪壁に悪戦苦闘しながら4ピッチ登ってようやく北峰に続く尾根上に出た。ワカン履いて深い雪をラッセルする。崩れる雪壁にてこずった。露岩のところまで再びアイゼンを履きアンザイレン。またも夜間登攀となり、2ピッチ登って北峰ピークに続く雪面に出る。最後のラッセルを踏み張りピークにツェルトを張った。濡れものを乾かすために日付が変わっても起きていた。

12月30日 晴のち曇

丸山北峰(9:40)－御前谷乗越(11:30/13:00)－内蔵助乗越(15:10)

明るくなってから起床した。主峰を越え、御前谷乗越でシュラフを干したりして大休止。内蔵助峰への登りは雪が深いのでトップは空身でラッセルする。ピークの直下で内蔵助平から登ったパーティーのトレースに合流した。内蔵助乗越で雪洞を掘ってビバーク。



御前谷乗越

12月31日 晴

内蔵助乗越(6:10)－富士ノ折立(11:40)－雄山(12:40)－黒部ダム(17:40)

雪洞が広いので準備が順調に進み山行中最も早く出発することができた。乗越で一緒になった都庁山岳部パーティーに先行する。丸山中央山稜の核心部は4ピッチほどロープを使って突破し、分岐点ピークに出る。中央山稜最上部の岩場を登ると時間がかかりそうなので、内蔵助カールの上部を縦走路に向かってトラバースし、縦走路に出てから富士ノ折立のピークを目指す。ピークで

は、風が強かったが展望は素晴らしく、360度の



分岐点ピークから見た富士ノ折立



富士ノ折立

大パノラマを楽しんだ。

雄山東尾根にはトレースがあり、雷電峰から岩稜を慎重に下ったあと、雪稜を一気に下降した。途中で劔まで行くというパーティーとすれ違った。黒部平は遠く、バテバテになって到着する。黒部平から先は、夏道のある尾根を外れ、樹林の中の急斜面をダムに向かって一直線に降り、最後はヘッドランプをつけてダム湖畔に着いた。ダムの堰堤を対岸に渡り、トロリーバスの駅の横の枝トンネルでビバークした。

1月1日 雪

黒部ダム(6:15)－アルペンラインゲート(9:15)

扇沢からタクシーを呼んでおいて、雪の降る中をゲートを目指して歩いた。ゲートが見えるところでちょうどタクシーが着いたところだった。初仕事だという運転手さんに、3月の黒部ダムでの岩魚釣りや地酒の話聞きながら大町駅へ向かった。下西はワングルの山小屋へスキーをしに行き、伊藤・柴山は急行くろよんで京都に帰った。(記／伊藤)

登山・登攀の記録
